

## 導入施設選定の考え方について（案）

### 1 国の基準

- 耐震性が確保されている施設に限定
- 施設規模と設置規模のバランスを考慮（災害時に必要な最低限の設備容量を確保）
- 平常時における設備の稼働率など、温室効果ガス削減に寄与するものであること

### 2 県の考え方

災害時への対応など国の基準に準拠しつつ、多様な再生可能エネルギーの活用や新たな取組み等を行う施設など、以下の基準に該当する箇所を優先的に選定したい。

#### （1）多様な再生可能エネルギー等の活用

地域特性を生かした再生可能エネルギーの活用を目指すため、太陽光発電以外の再生可能エネルギー等の発電と熱利用を重視

（小水力発電、風力発電、木質バイオマスや温泉熱の利活用など）

#### （2）独自の工夫した取組

他の市町村にない新たな取組により、災害に強く、低炭素な地域づくりを展開

#### （3）南部・東部地域

紀伊半島大水害の教訓を踏まえ、南部・東部地域については、単一の変電所に依存しており、かつ道路の寸断などにより災害時に長時間の停電が起こりやすい

#### （4）広域災害拠点

大規模災害時に、広域の災害支援拠点となる施設

## 他都道府県の先進事例等

### 青森県

- 消防署

太陽光＋蓄電池＋地中熱（地下水循環方式）を整備

- 交流施設

太陽光＋蓄電池＋ペレットボイラー、ペレットストーブ  
地域で焼却していた稲わらをペレット化し、熱源として利用

### 北海道

- 総合体育館

太陽光＋木質バイオマス発電＋余熱利用＋蓄電池  
地域資源を活用した自立型の電気・熱エネルギー供給システム

### 長野県

- ハイブリッドLED避難誘導灯

地元企業が開発したものを採用し、高い費用対効果

### 兵庫県

- 日帰り温泉施設（町の福祉避難所）

温泉熱バイナリー発電  
観光資源や環境学習教材としても利活用

### 和歌山県

- LED誘導避難灯

海の近くで有り、避難所まで迅速な移動が必要

### 熊本県

- 小学校

蓄電池付きソーラーウィンド発電機＋ペレットストーブ